

障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団 ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために～

No.7 2015.1.21



ともに生きる条例が平成26年4月から施行されたことに伴い、市職員に合理的配慮の必要性を理解してもらうため、職員研修を行いました。

平成26年12月15日(月) 10:00～11:30

会場：別府市役所5階 大会議室

今回(第2回目)は、部長級、次長級、課長級の管理職を対象として26人に受講いただきました。

講師団からは、瀬戸弘美さんと川野陽子さんが出席して、障がいのある当事者という立場からそれぞれの障がいについて話をしました。

研修の流れ

- ① 講義 (30 分間)
 - 当事者からの講和と合理的配慮の視点
- ② 体験 (40 分間)
 - アイマスクと車椅子を使った疑似体験
- ③ 演習 (15 分間)
 - Q & A形式による合理的配慮の考え方の練習
- ④ 評価 (5 分間)
 - 受講者アンケート



社会的障壁とは

障がいのある人にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものです。

障がいのない人を基準とした社会形成が、社会的障壁を生み出し、障がいのある人に生活のしづらさや不安を与えますので、生活における様々な場面で社会的障壁を取り除くこと(合理的配慮)が求められます。

と も に 生 き る 条 例



発行：別府市福祉保健部障害福祉課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL：0977-21-1413 FAX：0977-22-1780

E-mail：haw-hw@city.beppu.oita.jp

市ホームページ URL：http://www.city.beppu.oita.jp

【川野陽子さんからの講話】



私は生まれた時から一度も歩いたことがありません。ウェルドニッヒホフマン病という進行性の病気で、筋ジストロフィーやALS（筋委縮性側索硬化症）に近い病気と言われており、年々筋肉が委縮し、筋力が衰え、自分でできることが少なくなっています。今自分で自由に動かすことができるのは、右手の先だけです。ここで電動車椅子を操作しています。

今は、日出町で24時間の介助を受けて暮らしています。私はかなり重度の障がいがあるので、生活する上ではあらゆる面で介助を必要とします。

小中高と西別府病院に隣接する養護学校に通った後、もっといろんなことに挑戦してみたい、障がいのない人ともっとかかわりたい、社会の中でいろんな経験を積みたいと思い、20歳の時に実家がある中津の短大に通いました。大学側としては、障がいのある生徒を受け入れるのは私が初めてでしたので、家族と大学側で何度も話し合いの場を持ちました。初めはいろんなことを大学側に合わせて生活しなければいけないと思っていましたが、大学側は様々な配慮をしてくれました。例えば、私は車椅子を使用していますが、3時間ほどしか座ってられません。そのため、大学側はベッドを用意してくれました。そして、急な体調の変化に対応できるように休憩できる部屋を確保してくれました。スロープも設置してくれました。また、私はペンを持ってスラスラと字を書くことができませんので、入試やテストのときは30分間から45分間、時間を長く配分してもらいました。エレベーターはなかったので、階段の上り下りは友だちが行ってくれました。周りの友達や大学側の理解と支え、家族の職場の理解、こうしたハード面とソフト面でのサポートがあって、私は充実した大学生活を送ることができました。

障がいがあっても障がいのない人と同じように、遊んで、仕事も頑張る。障がいのない人にとっては当たり前なことかもしれませんが、障がいがあると就職ができない、外出ができないといった課題がまだまだあります。障がいのある人が自立し、あきらめない社会をどうやってつくったらよいかということをも「ともに生きる条例」は考えてくれていると感じています。

【瀬戸弘美さんからの講和】



私の病気は、正常眼圧緑内障という病気です。視神経が侵され、視野が狭くなっていきます。私はまだ全盲になっていませんが、平成元年に目の異常がわかり、病院に行ったところ、緑内障でいずれは全盲になると宣告されました。そのころはまだ子どもも小さく、夫も他界しましたので、子どもを育てることに懸命で、自分の目のことは考えないで生活していました。そして、子どもが自立し、やっといろいろな眼科をめぐるりましたが、視野がひどく狭くなり、平成14年に1種2級の身体障害者手帳の交付を受けました。その時初めて、全盲になるということを実感しました。

先日、視覚障がいの方がテレビで「視覚障がいは情報難民だ」と言っていました。一言声をかけてもらうことがどんなに助かるものかと思いつくづきました。日々の生活のことですが、外出時は白杖で点字ブロックの上を歩くと安心します。ですが、私が点字ブロックの上を歩いているのに目の前を歩いて白杖に足を引っ掛けたり、自転車でも目の前を横切ったりすることがありますので、まだまだ、点字ブロックや白杖の認識が浸透していないと思います。指先で触って野菜の種類などはわかりませんが、買い物にも不自由しています。また、印刷されたものというのはわかりづらいです。わかりやすいのは、飛び出したり引っ込んだりした字です。トイレも不便です。トイレの作りが統一されていないので、例えば、水を流すレバーやペーパーの位置が分からなかったりで大変です。テレビを聴いていて地震などのニュース速報があったとき、読み上げてくれる声がないので、とても不安になります。

別府は縦通りに段差が多く、桜の木が植わっていたりして歩けません。そのため、先日、選挙がありましたが、家から投票所まで近いのに、歩いていくことができません。ですから、選挙の時は市役所までタクシーに乗って行き、期日前投票をしています。

白杖にあまり意識がないと思いますが、盲人が頭の上に白杖を挙げたときは「どなたか助けてください」という意味です。